

くすり一口メモ

## 带状疱疹予防ワクチンについて

带状疱疹は、体内の神経節に潜伏感染していた水痘带状疱疹ウイルス（VZV：Varicella Zoster Virus）が再活性化して発症するもので、疼痛を伴う皮疹が片側の皮膚分節に沿って出現します。皮膚症状の治癒後も、痛みが長期にわたって続く带状疱疹後神経痛が一定の頻度で発症し、患者のQOL（Quality of Life）を著しく低下させます。予防接種法に基づく感染症流行予測調査によると、成人のVZVに対する抗体保有率は90%以上であり、成人のほとんどが既感染で、発症リスクを有しています。また85歳の人の約半数が带状疱疹を経験していると報告されており、80歳までに3人に1人が経験すると推定されています。

2016年3月に乾燥弱毒生水痘ワクチンの効能効果に带状疱疹の予防が追加され、国内で带状疱疹予防ワクチンとして接種可能となりました。また、2020年1月にはシングリックス筋注用の販売が開始され、2022年8月時点では2種類のワクチンが使用可能となっています。今回は带状疱疹予防ワクチンについてまとめました。

商品名	シングリックス筋注用	乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」
効能・効果	带状疱疹の予防	水痘の予防 50歳以上の者に対する带状疱疹の予防
ワクチンの種類	不活化ワクチン	生ワクチン
接種方法	筋肉内注射	皮下注射
回数	2回	1回
接種間隔	2ヶ月	-
接種対象者	50歳以上	50歳以上
発生抑制効果	50歳以上：97.2% 70歳以上：89.8%	50歳-59歳：69.8% 70歳以上：55.4%
带状疱疹後神経痛への効果	88.80%	66.50%
効果持続期間	10年間	5年間
主な副反応	疼痛（78.0%） 発赤（38.1%） 腫脹（25.9%）	注射部位紅斑（44%） 注射部位掻痒感（27.4%） 注射部位熱感（18.5%）
接種不適当者	1. 明らかな発熱を呈している者 2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者 3. 本剤の成分でアナフィラキシーを呈したことがある者 4. 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者	1. 明らかな発熱を呈している者 2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者 3. 本剤の成分でアナフィラキシーを呈したことがある者 4. 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する者及び免疫抑制をきたす治療を受けている者 5. 妊娠していることが明らかな者 6. 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

2014年に小児水痘ワクチンが定期接種化されて以降、水痘の流行が激減し、高齢者がブースター効果を得る機会が減少しています。社会の高齢化に加え、水痘流行の減少により带状疱疹患者がさらに増加することが予想されます。今後、带状疱疹が予防可能な疾患であることを広く知ってもらい、ワクチンを選択肢に入れた「予防」が重要になると考えられます。

参考文献：各社添付文書、インタビューフォーム、今日の臨床サポート  
医療関係者のためのワクチンガイドライン第3版  
带状疱疹ワクチン ファクトシート

（鹿児島市医師会病院薬剤部 青木 理歩）